東由利村報

No. 144　1969・7・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）　昭和42年7月21日第三種郵便物認可

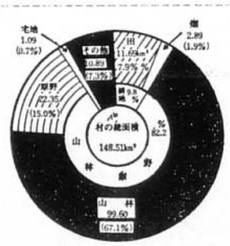
世帯と人口

世帯数	1,598世帯
人口	7,509人
男	3,702人
女	3,807人

前月に比し世帯は3の減
人口は8の減

財政

一般会計		303,174千円
特別会計		57,349千円
内訳	国保	55,068千円
	黒診	799千円
	簡水	939千円
	玉財	543千円



追加補正予算・8千300万円

一期工事の対応額計上

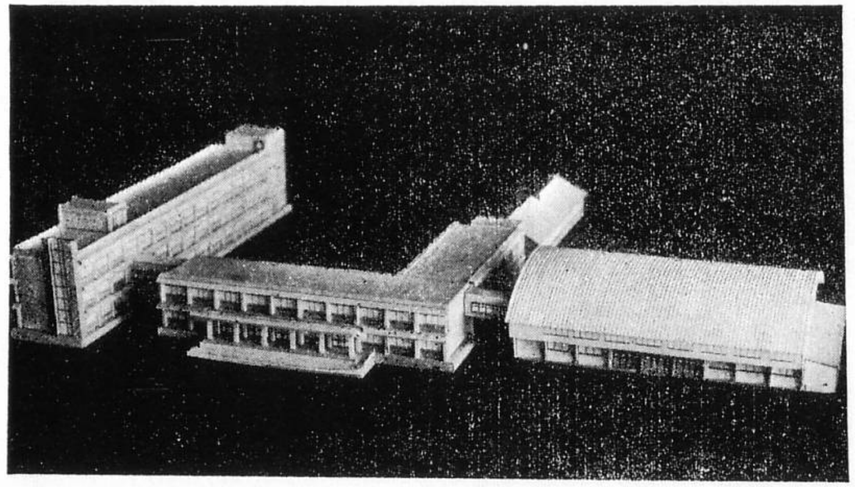
東中校舎着工せまる

東由利中学校の第一期工事の建設予算七千八百万余円など、44年度一般会計補正予算案ほか議案八件、専決処分の報告二件を審議する、第三回東由利村議会は6月19日役場に■招集、それぞれ原案どおり可決された。

まずはじめに、小松村長が4月以降の村政につきあらましを報告した。

①東由利中学校建設への準備作業＝文部省は当初44年度の建設規模を一、五〇〇平方㍍だけ容認する意向であったが、その後好転して、われわれの希望どおり一、九七〇平方㍍となった。設計の完成時期が、予定より約半月おくれてはいるが、6月17日には現場説明、同23日には、統中建設委員会の意向に基づいて、中央五社を指名競争入札を行ないたい。

②村の誘致企業である共和電子工業＝われわれが予想しなかった電力不足のため操業開始がおくれたが、その電力も同社が独自に解決、操業をはじめたのは慶ばしい。その後、村内の既存業者との間に若干の問題もあるが、それぞれの良識において、共に繁栄されることをねがっている。



中学校の完成予定模型

③水道事業＝今春来、大ボツメキ小ボツメキの水量調査を進めているが両方で約三千㍍の水が得られる。しかしこの水量を利用した水田が約一五㌶あるので、この水田にかんがい水を供給できるかに問題がかかっている。なお、牧山川上流の水量調査も行なっている。

④当初予算議会で要望されたゴミ処理の問題は、未だ名案を得ないでいるが、さらに検討を進める。各位の案も示してほしい。

⑤林業構造改善事業は44年度の林道二路線が発注を終えるなど、すべて順調に進んでいる。

⑥牧山林道は第二年次工事分発注ずみ、また金山、黒沢の県営林道二路線は、県で工事量が内定している。高村冬期分校の建設工事もすでに発注を終えている。

一般質問に五氏

本会議では議案審議に先だち、五氏が立ってつぎのような一般質問を行なった。

小野昭一氏　村の八二㌶は山林原野であり、この開発を促す総合振興計画の急を感じるが。②自治省の広域行政圏につき、市郡ではどう扱っているか。また村独自の構想は。③県道舗装の促進などの道路開発につき、どのような働きかけをしているか。④村道に重要度による順位をつけて維持管理を合理的に行なえないか。⑤地下資源の探査を行なえ。⑥共和電子の誘致は村経済を発展させる一助となり有効だ。今後も既存企業と共存できるよう、工場振興条例をつくって積極的にすべきである。⑦ボツメキ水道を敷いた場合、消防上の見地からも法内や奥地にまで延長し、全村におよぶようにすべきである

小松村長　総合振興計画とあらためて名うつ考えはないが、それぞれの事業計画を総合調整して主旨にそうように努力したい。また造林は公有私有それぞれに計画があろう。②広域行政圏構想に対し、由利郡でも希望してはいるが、時勢の方向上、名乗りをあげた程度である。③道路開発は県のみにだけでなく、関係庁に連絡をつけて積極的にしている。県道路課長の話では、当村は他町村に比べ予算が多いと言っている。④村道にランクをつけるのは、村民が納得すればよいが容易でない。⑤地下資源、県では残念ながら当村には目的物がないと言っている。⑥工場振興条例は具体的に何をさすのか不明だ今後の研究課題にしたい。⑦水道は段階的に進ちよくをはかるのがよい。

長谷山喜市郎氏　入り会い林野の近代化を調査して積極的に実施すべきと思うがどうか。②誘致工場に総務課が窓口となって従業員募集の協力をされているが、誘致企業と既存企業とのトラブルを懸念する。今後どれほどの援助をするのか。

村長　入り会い権のない人に、組合をつくらせてやらせるのは適当でない。従来の権利者だけの構成であれば可能だが。②議員一人で五人の工員を、という外交口上で誘致をしたが――、誘致工場であり応分の協力は必要である。

藤原虎之助氏　人口減による①人口流出で生じる当面の難問題は何か。②過疎対策法につき県と関係町村が話合ったことは。また、村の現状からどんな構想でのぞんだか。

村長　村の人口構造の将来を、ある期間展望できないと問題の所在が見えないので、いま県の総合開発課に依頼している。②過疎対策特別法に県内一四カ町村が該当しており、対象地域となろう。しかし、これによって特殊な目的法ができるのではなく、ある制度での補助につき〝かさ上げ〟するもののようだ。ただ平地へ移転させるような部落の再編成は含まれていない。

田代寿治氏　井戸水は構造上不衛生と思うが、各部落ごとの井戸を水量、水質ともにこれまでの調査を示せ。

村長　ほとんど不衛生と思うが早急に完全化はむずかしい。最終的には水道になろう実態調査をして資料にしたい

長谷山二郎氏　東中建設の部落座談会では村全域からの通学道路の改修を訴えている具体的な計画あるか。②鳥海開発として何がとりあげられているか、またこの開発構想にできるだけ参加せ。③米価据え置き、春以来の天候不順で農家は不安を感じている。村はどう把握し指導しているか。④農業対策審議会はどうもって行くのか。

村長　通学道路のみならず全般的に考えなければならないが、一挙にはやれない。しかし十分考えて行きたい。②鳥海開発は現在、コロニー建設と県営牧場。道路は矢島から象潟への既設のものが改修また仁賀保からの登山道改修ていどである。いまは立地の関係から地域はかぎられているが、将来は、例えば雄平仙三郡からの観光は本村を通ってなど、プラスにもって行きたい。③農作物への技術指導は産業団体である農協、あるいは指導機関である普及所が適切にしていると思う。村としてもできるだけのことはしたい。④農業対策審議会は新しいメンバーを近いうちに発令したい。

村の井戸水安全か

15日、交通事故相談

交通事故にまつわる、いろいろな悩みごとの相談を受ける、交通事故巡回相談が毎月本荘警察署管内は、本荘市役所で行なわれている。

同相談所が扱ったこれまでのケースでは、賠償問題の知識不足から、自賠保険の請求を加害者にまかせっぱなしの件。また調停が必要な件。交通事故による傷病と健康保険証の効用など、ちょっとの相談で解決できる程度の悩みがほとんどであった。

7月15日は定例相談日なので、もしお悩みの方は気軽にと、秋田県交通事故相談所でのぞんでいる。

子どもの素質を十分に

―東由利中学校―願いをこめた設計完成

昭和44年4月1日から、下郷、玉米の両中学校を廃止して、新たに〝東由利中学校〟を、老方字台山八十五番地にと定めた、村立学校条例の一部改正案が、1月30日の村議会で成立したことで、統合中学校の建設は動かないものとなった。

また今日、本村としては多大な、そして貴重な投資を、このような学校施設に――と判断させた背景は、つぎのいくつかの問題解決のためである。①出生数の減少が学校生徒数に影響。②しだいに小規模学校化して行き、子どもの素質を十分に伸長させる教育環境が失われる。③旧村ごと二つの中学校は、やがての村の和にマイナスの作用をすることもある。

一級建築士、山方多栄治氏（秋田市）の手になる東由利中学校の建設設計図が出来あがった。

それによると、本校舎部分として44年度に建設されるA棟。45年度にされるB棟。また附属部分としては、45年度に建設される寄宿舎、45～46年度にされる技術室、46年度の屋内体育館からなっており総面積五、九四一平方㍍（約一、七九六坪）である。

これは現在の下郷、玉米両校舎を合わせた広さを一とすれば、新校舎は〇・九八の比率という規模であり、大部分が鉄筋コンクリート造りの近代的な、本村の中等教育の殿堂にふさわしい偉容をほこることになろう。

快適な校舎めざす

東由利中学校建設の全体計画を、実施年次をおって説明してみよう。

まず、ことし建設されるA棟は鉄筋コンクリート構造の三階建、面積一、九七五平方㍍（五九七坪）である。

施設内容は普通教室が一二音楽室・美術室・図書室各一であり、スチーム暖房、水洗便所（浄化槽つき）、変電室が設備されるという、これまでの、村でつくる学校設備の常識をしのぐ、快適な校舎になるはずである。

45年度にはB棟、鉄筋コンクリート二階建一、六三二平方㍍（四九四坪）が建設される。ここには普通教室・職員室・保健室・宿直、使丁、湯沸室・視聴覚室、各一。理科室・家庭科室、各二。ボイラー機械室（スチーム暖房用）などが配置されるはずである。

これと併行して45年度には九六五平方㍍（二九一坪）の寄宿舎が木造で建設される予定で、これは文部省の通年制九〇人収容基準にもとづくものである。

村としては寄宿舎は、単に遠距離通学生徒や冬期間の、通学困難を解消するばかりでなく、夏季には集団活動の場としたり、また小学校高学年むけの合同レクリエーションの場にというように多様的に活用したい考えも待っている

全容完成、46年度に

また45年から46年にかけて鉄骨づくりになるか、現在の木造校舎の移転になるかは未決定であるが、技術室二九八平方㍍（九〇坪）の建設がある。

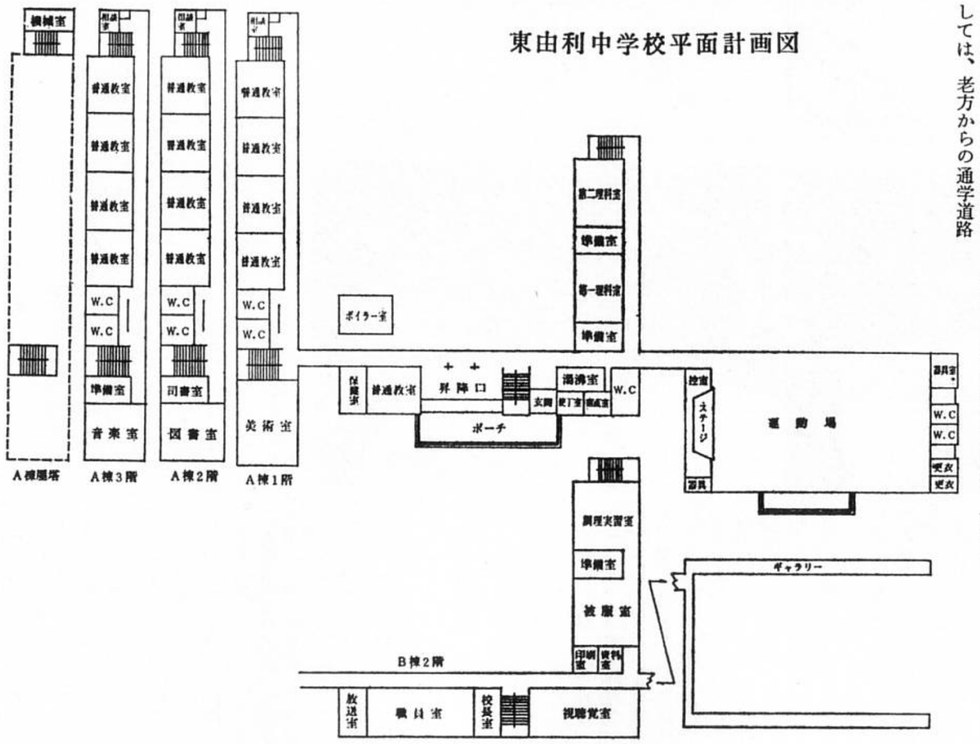
いよいよ46年度には、東由利中学校の全容が完成するが鉄骨づくり一、〇七一平方㍍（三二四坪）の屋内体育館にとりかかる。

これには屋内運動場のほかにステージ、ギャラリー（観覧席）、更衣室、器具室などが附属するが、運動場は広さ六八九平方㍍（二〇八坪）であり、練習用バスケットボールコート二面がとれる広さをもつことになる。

校舎建設に付帯する工事としては、老方からの通学道路一、一八〇㍍の整備。幅八〇㍍長さ一二〇㍍の広さのBグランド新設。館合簡易水道から分水して延長などがある。

なお、玉米地区からの通学道路は漸次計画整備されることになろう。また、東由利中学校用地として取得した面積は約三万平方㍍（約三町三畝）である。

東由利中学校平面計画図



昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利村報

昭和44年7月1日　第144号

教育委員に佐藤氏

校地取得は三万平方メートル

6月19日招集の村議会で可決された議案の中から、住民とつながりの深いものを拾ってみよう。

▼村税条例の一部改正。これは地方税法が一部改正されたためである。この中には非課税となる所得の最低限度額を二十八万円から三十万円にする。また、軽自動車税に雪上車に対する税率を新しく設けたなどのほか、字句の訂正をしたものである。

▼国民健康保険税条例の一部改正。国保税は43年度に比べ二二・三％伸びており、これに対応するための税率改正である。

▼村職員の旅費にかかる条例の一部改正。国鉄の運賃改正に対応するため。

▼一二件の村条例を廃止。昭和32年に制定した新市町村建設審議会条例・昭和36、37年度用の固定資産税の税率特例条例・館合簡易水道の布設工事分担金徴収条例などの、すでに不用になっている一二件の条例を整理したもの。

▼財産の取得。東由利中学校の建設用地として老方字台山地内三〇、〇三五平方㍍（三町三畝二歩）の畑、原野を九九一平方㍍（一反歩）あたり一八万円で取得した。相手方は下通、小松光治郎ほか三〇人。

▼教育委員会の委員任命に同意を求める。青木芳雄氏の辞職により、新委員に蔵字新田佐藤欽次郎氏（写真、六二歳）を任命。

補正予算の使い途

▼44年度の村一般会計補正予算。八千三百十七万四千円を追加して総額を三億三百十七万四千円とした。この中の主な使途は▽東由利中学校建設費七千八百二万四千円を追加して八千六百七十二万七千円に補正。▽同中学校用地購入四十四万八千円▽ブルドーザ購入費百三十七万円▽林構林道二路線（大吹川線・水上線）工事請負費八十八万六千円。▽林構事業の樹苗生産施設用に本村森林組合に補助二十七万二千円。▽牛の導入事業であり当業者への利子補給六十四万円▽家畜診療所補助三十万円▽人口授精用、凍結精液保存器具購入に三十万円▽台山線の補修用砂利代三十六万三千円。▽山崎橋修理工事請負二十万円▽湯出野ほか二線の災害復旧に十九万五千円▽高村ほか一線の林道災害復旧に十六万円▽下小屋鐘楼工事十二万円。

カメラがひろう・43年度工事

①道路の維持修繕6,592千円老方後町側溝をはじめ、村道各路線に投じられた。日常の道路愛護がのぞまれる。

②橋の新設改良8,896千円須郷田橋のような村道の永久橋化が進んでいる。左側は古い木橋。

③橋の維持修繕950千円。写真は舟打場の赤倉橋。小さくても流れない橋に変って行く。

④道路の新設改良14,003千円。須郷線改良のように車が通れる道路がグングンのびて行く。

⑤公共災害復旧3,432千円写真、牧山川ほかがある。耕地などへの災害防止のため積極的に行なわれている。

⑥牧山林道、御嶽地内

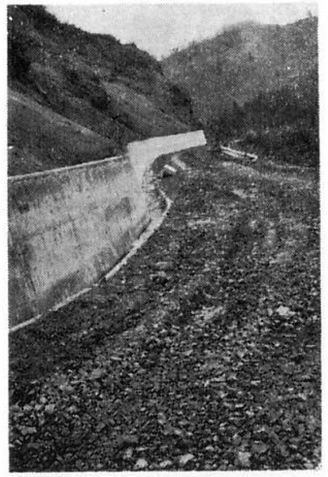
⑦単独災害復旧1,739千円写真は茂沢地内の法止め、この規模の工事は村内各所で行なわれた。

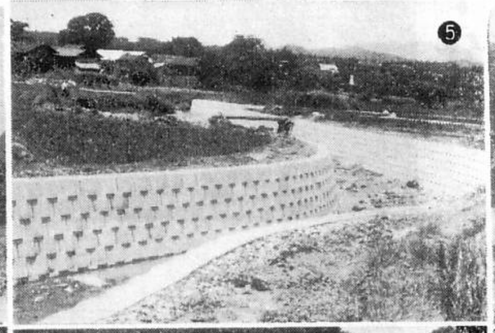
⑧林道の改良・開設・維持12,508千円。写真、軽井沢線桃台地内、牧山林道とともにこれらへの投資もめだった。

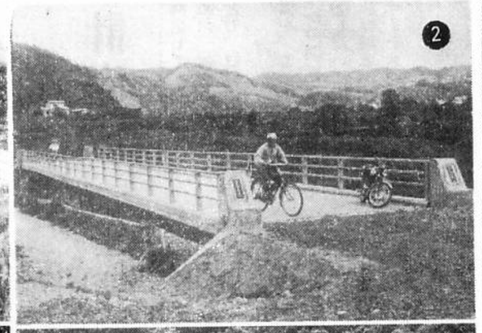
⑨写真、老方の教員住宅、ほか岩館と合わせ2棟に2,347千円がかけられた。

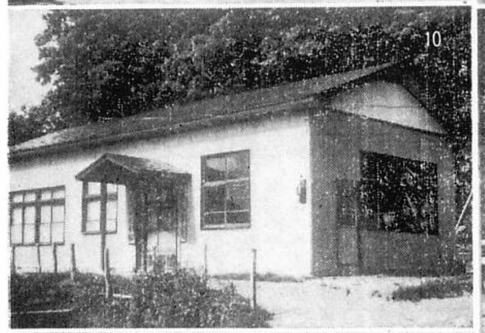
⑩2枚看板の須郷田生活総合センター・児童館。1,800千円がかけられ農繁期の共同炊事などに利用されている。

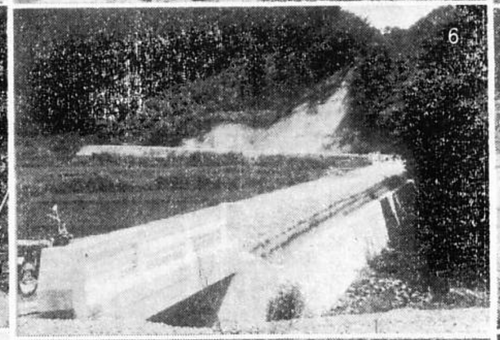
⑪写真は田代の沖田橋。このほか老方、養田橋は村の財布を傷めない県工事として永橋化された。

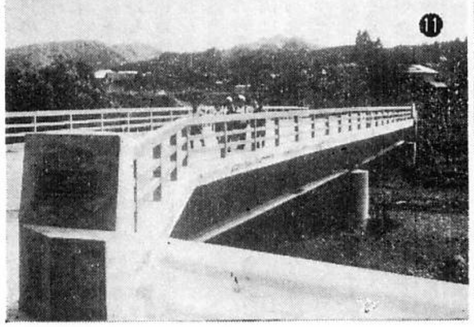


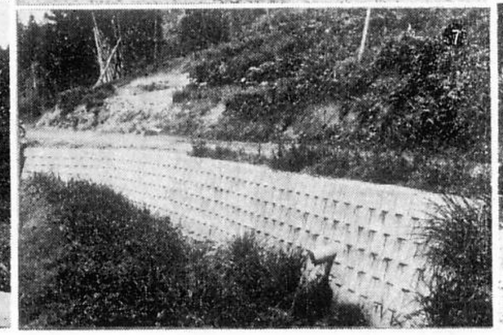












平凡の中によさ

宿小の子ども

朝の登校、校庭で遊ぶ子らの「お早ようございます」声のうずが、いっせいに飛びこんでくる。そのうち、四、五人が駆けこんできてあいさつし、かばんを弁当をもってくれる。元気な声明るい声、けがれのない澄んだ声、かわいい口もとからでる朝のおしゃべりは、わずか、なまりはあるが、きれいな共通語には驚く。つぶらな目すずやかな目、四角な顔、丸い顔、服装、身だしなみは見た目にはきちんとしている。桜の老樹に囲まれた美しい舎前のグランド、正式に二百五十人の子どもにとっては、恵まれた遊び場でありつきりした丸庭、校舎後の田園、高館山、山紫水明、環境が人をつくる。恵まれた自然環境は誇り得る。足を校内に運ぶ古い校舎にふさわしく、床が黒々としてぴかぴか光っている。ふかれた床というよりも汗で磨かれた床だ。床に歴史がある。明治四十二年改築されたままだ。六十年の歳月を経たと考えられない清潔さだ。この床を！今日まで幾人の子どもが行き来し、そして門を去っていったことだろうか。床は、だまっていても語ってくれる。卒業生は二千百二十数名を数えている。温古、古きもののよさ伝統を受け継ぎたい。破れた窓ガラスの一枚もない学校、ひときれの紙くずも落ちていない学校、平凡の中のよさを誇りたい。五月三日、宿部の運動会が行なわれた。本校の先輩、つまりPTAの主軸が競って協力してくれた。五十才、六十才台の百、二百㍍の競技走これくらい何のその……その若さに驚く、疲れを知らない五十青年のあまりにも多いことだ。ここに若い頃鍛えた、たくましい健康がある。この方々の血を引いている子どもたちであるからだろう、六月十七日の東由利地区の体育大会に選手リレーは男女とも、全種目入賞し、その他、走跳各種目活躍、受賞数実に十七、五～六年生六十二名の在籍児童三・六人に一人の入賞率になる。PTAの協力、体力のすぐれている証左に外ならないと思う。こんなに健康で明るいよい子どもたち、しかし素朴な願いもある。心身ともにたくましいなかに、人間的温かさ、情操を育てたい。これからの社会には、どうしても近代的モラル、センスのもち主が要求される。疎外の社会も、やがて改変されねばなるまい。聖なるもの、真なるもの、美的もの、知的ものを正しく感得できる、情緒の豊かな子どもに育てたい。

【宿小学校長・佐藤敏英氏・寄稿】

佐藤敏英氏

写真　上、全種目入賞の選手たち。下、清掃も大切な学習の一つ。

浅沼組と契約

東由利中学校建設の（第一期工事、鉄筋コンクリート構造三階建一、九七五平方㍍）工事請負契約は、6月17日、中央五社を指名して現地説明同23日競争入札が行なわれたが、価格が折り合わず不調に終った。そこで指名五社のうち最低価格を投じた株式会社浅沼組（本社、大阪市）と随意契約に移り、交渉を重ねた結果6月30日工費七千二百五十万円で仮契約を締結、議会の承認を経た上、正式契約が締結される。これにより同中学校建設には7月初旬から着工されることになり、外部工事は11月いっぱいで出来あがる。

なお、請負者にきまった浅沼組は、県内では秋田市立高校、秋田市山王中学校、県教育会館、秋田市役所、由利組合病院などの工事を経験している。

起工式は9日に

同校舎建設の起工式は7月9日、台山敷地で行なわれる

高村分校新改築へ

へき地集会室を兼ねた法内小学校高村冬期分校の新改築工事の入札は、6月14日役場で村内の指名三業者が参加して行なわれた。

その結果、9月15日までには完成することとし、佐藤徳市氏（八日町）に落札、工事費二百六十三万円で着工されることになった。

高村分校のある同部落には、一六世帯八四人の人々が住んでおり、本校までは約五㌔、冬の〝なだれ〟の危険から通学児を守るねらいで村和24年からは冬期分校として運用されてきた。同33年からは冬期分校として運用されてきた。

現校舎は昭和24年に建てられたものであるが、軟弱な敷地と用材などから、危険な状態にあるのに加え、採光の不良と教室間の朗読音もつつぬけという、いかにもわびしい分校と化していた。

新改築される校舎は、総面積一二二・二三平方㍍（三六・六七坪）と、ミニミニ校舎ではあるが、九・九三平方㍍の教室二つと五七・九六平方㍍の屋内運動場ほか、職員室宿直室など一応の配りができている。

電話、新たに七個

6月20日から老方局に新し電話七個が開通した。蔵、共和電子工業KK三〇〇番。横小路、赤川正二、三〇三番中通、森川九二男三〇四番。新町、小松春松三〇五番。横小路、柏原健一、三〇七番。館合、小松耕之助三〇八番。舟打場畠山貞一郎六一〇七番